参政党 神谷代表発言に抗議する緊急アクション

7月11、12、13日の3日間 217カ所で！

「今まで間違えたんです、男女共同参画とか」「高齢の女性は子どもが産めない」「学校出たら、家に入って」―参政党の神谷代表の発言に対して7月7日、「全国一斉に抗議アクションを」の呼びかけ（太田啓子、太田伊早子、武井由起子ら3弁護士）がされ、新婦人は全都道府県、217カ所で緊急行動。SNSで広げたり、班会、支部委員会の後に地域で集まるなど、多彩にとりくみ、テレビや新聞、ネットニュースで取り上げられ、選挙最終盤の参政党の勢いを止める力となりました。

居ても立ってもいられない！

東京・千代田支部かれん班（職場班）　神奈川・桜木町での抗議アクションを知り、「私たちもやろう」とお昼休みにスタンディングを実施。班から6人、他班から2人の計8人で行動しました。

差別に投票しない！と一人ずつ自分の言葉でスピーチ。「結婚も出産も政治が押し付けるものではなく、私たち自身が決めるもの」「自分たちの暮らしが苦しいのは外国人のせいではなく、自公政権の政治のせい」「差別には投票したくありません」とアピールすると、笑顔を向けてくれる人、プラスターに目をやってくれる人もいました。

青森支部　緊急アクションに、34人が参加。準備した16枚のプラカードが足りなくなりました。情報を聞きつけて男性の参加も。さらに、男子高校生2人が飛び入り参加！　一昨年入会した次世代会員も積極的に行動。「アクションを起こしてくれてよかった」「ありがとう」と。

岡山　次世代のLINEグループに「11日に緊急アクションを」と呼びかけると、次つぎと転送され、40人が参加。行動に励まされ、**高梁支部**が翌12日にスタンディング。さらに、「日曜日ならできる」という声が上がり、13日も行動、20人が参加。マイクを回し自分たちの思いを語りました。

途中、妨害する人もいましたが、最後に訴えた会員（保育士）が「昔のように女性の生き方を『家』や『国』が決めるんじゃなく、『私』が決める、当たり前のこと。子どもたちの未来のために差別・分断は放置しない」と話すとみんなが拍手。妨害してきた人も最後は納得。参加した市民団体の方から「アクションを起こしたかった。声をかけてもらいうれしかった」と。

埼玉・戸田支部　9人がスタンディングに参加。子育て中の会員が4人もかけつけ、子どものことを思いながら、自分たちの言葉で発言。「差別や国籍で差別しないで」と手作りプラカードも。みんな写真を撮ろうとしていたときに遠巻きで見ていた女性が「川崎のアクションをテレビで見てうらやましいと思っていた。戸田でやってくれてうれしかった」と声をかけてくれました。

高知　2回の緊急アクションにのべ50人が参加。飛び入り次つぎ。ドイツから移住を検討中の人は「ドイツではパレスチナを擁護すると逮捕される。私も3回逮捕された。日本をそんな社会にしないために声を上げにきた」と。参加者から「モヤモヤしたけど一人ではできないから呼びかけてくれてよかった」の声がたくさんありました。

佐賀　フラワーデモといっしょに12人でスタンディング。「人間をファースト、セカンドと順番をつけた瞬間に人権が無視される。いま起きているヘイトを傍観したくない」と訴え、道行く女性たちから注目され、兵庫・西宮支部まわりに声をかけて、アクションに賛同した方たちも参加。片付けも一緒にしてくれて読者になりました。

仲間も迎えた

愛知・名東支部　「今日抗議のスタンディングをする、一緒にどう？」と知人をお誘いすると、「さすが新婦人」と入会。

東京・品川支部　大井町駅前で14班21人と〝ワンちゃん〟もかけつけてスタンディング。プラスターをじっと見ていた女性に話しかけ、見本紙を渡して対話、LINE交換も。通りがかった知人が読者に。参加した会員は「やってよかった」と。

▲東京・千代田支部かれん班

▲岡山

▲埼玉・川越支部

▲和歌山市支部

▲高知

▲青森支部

▲千葉・船橋支部

▲愛媛・宇和島支部

▲埼玉・戸田支部のプラカード

▲佐賀

親子リズムで

茨城・那珂支部なずな班「スタンディングやりませんか？プラカード作ってきました！」とオムツが入っていた段ボールで作ったプラカードをたくさん持ってきてくれた会員。彼女に背中を押され、親子リズム小組の後、大人2人、子ども4人、赤ちゃん1人で初スタンディング！

▲鹿児島

隔月掲載

女性＆メディア

どうしたら戦争をとめられるか

高江洲洋子（たかえず）「琉球新報」統合編集局 編成センター・副グループ長

照りつける強い日差しは30年前と変わらなかった。6月23日、沖縄・慰霊の日。沖縄県が主催し糸満市摩文仁の平和祈念公園で開催された「沖縄全戦没者追悼式」に参加した。取材ではない。琉球新報が同日発行した特別号の配布が主な仕事だ。

30年前の1995年、当時新入社員だった私は、公園内にある「平和の礎（いしじ）」の除幕式を取材した。沖縄戦の実相を伝え、沖縄が平和の発信地として世界に貢献していくことを目的に国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなった氏名を刻んでいる。果物や菓子を供え祈る人々、刻銘をなぞる姿、涙をながした。取材ではない。琉球新報が同日発行した特別号の配布が主な仕事だ。

30年前の1995年、当時新入社員だった私は、公園内にある「平和の礎（いしじ）」の除幕式を取材した。沖縄戦の実相を伝え、沖縄が平和の発信地として世界に貢献していくことを目的に国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなった氏名を刻んでいる。果物や菓子を供え祈る人々、刻銘をなぞる姿、涙をながした。

「平和の礎」の前に置かれたメッセージと折り鶴＝6月22日午後、糸満市摩文仁の平和祈念公園（琉球新報社・小川昌宏撮影）

今年は親子3～4世代かとみられる姿が目立った。

特別号を配っているさなか、突然、僕らにもください」と男子学生の集団から声をかけられた。大阪から修学旅行で来ており式典に参加したという。一人の学生は「おばさんが、いま高校生で戦争に行けと言われたらどうしますか」と試すような口調で尋ねてきた。わたしはうーんと考え、「本音は嫌でも周囲が行くなら流されそうになる気がする」と答えた。「あなたならどう」と尋ねると、間を置いて「僕は行きたくない。僕は臆病だから逃げると思う」と言う。

「なぜ戦争が起きるのか、戦争が起きないようにするために、何ができるのかお互い考えていこうね」。わたしは少し、えらそうな口調で話しかけ特別号を手渡した。わずかな会話だったが、戦争をみじかにとらえ、不安になっている様子が垣間見えた。

中東やウクライナで戦禍が続いている。30年前は「平和の継承」をテーマに取材した。今は「どうしたら戦争をとめられるか」に変わっている。この間、世界情勢の変化もあり、政府は有事法制を進め、「集団的自衛権」を行使できる国に変えている。平和憲法がないがしろにされている。

過去に学び、戦争を起こさないために何ができるか考え、行動することが何より求められている。大阪の高校生たちが平和の礎を歩いて見聞きした沖縄戦の記憶が、何らかの形で心に残るよう願った。

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス　s-press@shinfujin.gr.jp へ

ホットライン

北海道　恒例の原爆パネル＆高校生の絵展

【札幌手稲支部　工藤孝枝】恒例のパネル展示を手稲駅連絡通路の「あいくる」で、7月4日～7日まで行いました。

戦後80年と被団協ノーベル平和賞受賞の記念すべき年、札幌市と市教育委員会の後援を得ました。区内の高校生にも見てもらいたいと、事前にアポイントを取り、4校のうち2校では、教頭と面談。全班で交替して、署名やパネルの説明をし、千羽鶴を折ったり。署名414人、一言メッセージ40枚、宣伝紙は47部渡しました。毎月の宣伝にも、力を入れていこうと、話し合いました。

夜間も見てもらえた▲北海道

神奈川　「原爆の絵」展に300人超

【瀬谷支部　佐藤登志恵】被爆体験証言者と広島の高校生が、記憶に残る被爆時の光景を描いた「原爆の絵」を6月22日～27日まで地区センターと公会堂で展示しました。

戦後80年の節目に「平和の大切さや核兵器の脅威を訴えよう」と企画し、地元タウンニュースに詳しく紹介され、見学者は延べ300人を超えました。細密に描かれた絵と添えられたコメントに涙を流す人も。見学者との対話やアンケート・SNSで寄せられる感想などに反響の大きさを実感しました。

核兵器禁止条約への署名・批准を日本政府に求める署名と募金にも多くの賛同があり、改めて高校生が被爆の実相を伝える絵の力に心が揺さぶられました。

タウンニュースに紹介された▲神奈川

山梨　公民館で原爆パネル展

【甲府支部　井口ひとみ】

被爆80年、原爆パネル・高校生の絵展の会場に公民館を加えました。市内の公民館6カ所にお願いしたところ快諾。ロビーに展示しました。期日前投票の会場となった公民館では投票に訪れる人が立ち寄りました。

2年目になる私立中学校では高校生の絵のみの展示でしたが、図書館司書の先生が『核兵器のない世界へ2』（安斎育郎文）の本を展示、広島の高校生がどうして描くようになったのか？のページをカラーコピーして掲示。生徒からの感想に「本当に地獄のようだと思いました」。校長先生も「被爆者の証言に耳を傾け、それを作品として形にした生徒のみなさんの想いに触れた。このような尊い取り組みに感謝します」と寄せられました。あと3つの公民館、市役所、市立図書館があります。

暑さに負けずがんばります▲山梨

栃木　「食の安全」学習会

【佐野支部　林美恵子】

6月に学習会を知らせるチラシを7200枚新聞に折り込み、7月19日、ゲスト8人を含む28人で「食の安全」学習会を開きました。

佐野市内で有機無農薬野菜を作るともくさ農園の代表を講師に「生きることは食べること　食べ物から生き方を考える」というテーマで学習。講師から「どうしてこういう会が作れるのか」と逆質問が。「働くために保育所・学童保育をと要求で団結している会」「沖縄でも東京でも全国どこにでも新婦人がある」と生きいきと答えていました。

会場には朝採れの野菜、産直センターのお肉を使った焼売、おにぎりも。壁には広島の高校生の原爆の絵のパネルが張られ、参加者に帯封付き宣伝紙20部を渡し、1人と2部増えました。

宇部宮支部から借りたパネルを▲栃木

長野　絵手紙の楽しさ改めて

【坂城支部　石関みち子】

絵手紙小組の会場でもある隣保館のフェスティバルに今年も参加しました。台紙に季節の花や台所用品をテーマに80枚。「いいじゃない！」とうれしくなりました。

午後の木管楽器三重奏も心にしみるひとときに。月1回の小組でも、いろんな集会に作品が展示され好評です。おしゃべりも楽しくしんぶんタイムも。

紫陽花の小びんも添えて▲長野

埼玉　らいてう・女性運動資料室へ

【春日部支部　小泉恵美子】6月10日、たんぽぽ班と他の班にも呼びかけて7人でらいてう資料室（中央本部内）を見学しました。茗荷谷駅から6分、桜並木の通り沿いに新日本婦人の会の看板が。らいてうの写真と「元始女性は太陽であった」の文字が迎えてくれました。

「スタッフがていねいに楽しそうに説明され、勉強になりました。女性の尊厳と自立を目指したらいてう、素晴らしい先駆者でまさに太陽」など、約2時間、らいてうの魅力にどっぷり浸って帰ってきました。

愛知　ゼリー作りました

【津島支部　早川かつみ】

支部委員会で、ヨーグルトのゼリーを作りました。久しぶりの体験でワイワイガヤガヤのなか、無事に完成。その後、しんぶんタイムをとり、仲間づくりや平和行進の反省など盛り上がりました。班にも紹介し仲間を増やしていきたい。

ユーカリ班、ひまわり班も▲埼玉

しんぶんタイムで盛り上がった▲愛知